

市の計画を紹介します

仙台市まち・ひと・しごと創生 総合戦略（人口ビジョン及び総合戦略）

なぜ策定したの？

急激な人口減少や少子高齢化、東京への一極集中など、さまざまな課題に対応し、将来にわたり活力ある日本を維持していくため、国は平成26年12月に「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を閣議決定しました。これを受けて、本市における将来人口の分析を行い、本市の実情を考慮しながら「仙台市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。

この戦略は、平成27年までの45年間の「人口ビジョン」と、平成31年度までの「総合戦略」の2本立てになっています。

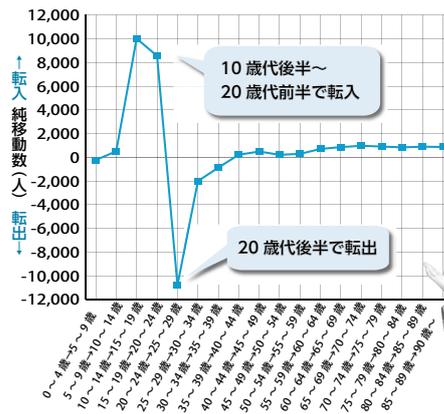
◎仙台市の人口にはどんな特徴があるの？

震災後、仙台市の人口は増えていますが、いずれは減少に転じる見通しです。

仙台市は「学都」と呼ばれているように、他都市と比較して若者の割合が高く、10歳代後半から20歳代前半の転入人口が多くなっています。ところが、20歳代後半に

なると転出人口が極端に多くなっており、就職等で市外に転出する傾向にあることがわかります。

2005年→2010年の年齢階級別人口移動



平成28年3月、「仙台市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。この計画について、政策企画課の職員に聞きました。

◎今後どんな取り組みを進めようの？

今後予想される人口減少の速度を抑える鍵は、この20歳代後半の転出超過をいかに減らせるかという点にかかっています。今後は起業支援や若者の地元就職を促進するさまざまな経済施策、子育て環境の整備などをさらに推進し、若い方にも選ばれ「すみやいまち・仙台」を作り上げていきます。



「ひと」と「しごと」を呼び込むまちを目指して

総合戦略では次の5つの基本目標を定めています。

- ① 地域経済の中心である中小企業を活性化し、起業・創業を促進
- ② 仙台の魅力を創造・発信し、国内・世界との交流人口を拡大
- ③ 仙台で学んだ若者が住み続け、東京圏からも人々が移り住む、新たな人の流れを創造
- ④ 子育てしやすい環境を高め、若い世代の結婚、出産、子育ての希望を実現
- ⑤ 地域特性に合わせ、若者から高齢者まで安心して快適に暮らせるまちづくりを推進

「仙台市まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、市役所1階市政情報センター、区役所総合案内、総合支所などのほか、ホームページでもご覧いただけます

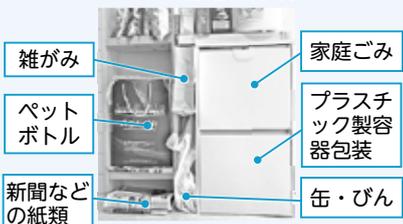


めざまよー!ごみ分別都市。 「転勤族」もごみ分別、 がんばります!

仙台には転勤で引っ越して来た方が多く住んでいます。地下鉄東西線の開業を盛り上げるために始まったWAKE UP!!プロジェクトの一環で「転勤族チーム」を結成した、関東出身の大山宗之さんと田代智志さんにお話を伺いました。小さい頃から実家で分別を実践していたという大山さん。昔から雑がみの分別が得意だったそうです。「現在は一人暮らしで家が狭いのですが、台所に立体的なごみ分別スペース(左写真)を作り、きちんと分別しています」と自宅での取り組みを披露してくれました。「震災後、仙台のごみは増えていると聞きました。市外から移って来た人もがんばらないといけませんね。転勤族同士で、ごみについても気軽に情報交換できる場がくれたらいいなと考えています」と二人は今後の目標を力強く語ってくれました。



▼大山さんの自宅の分別スペース



WAKE UP!! とは？

ごみ分別意識を呼び覚ますため、「目覚めよ!」と「分別向上」の2つの意味を込めた造語。今後「ワケアップ! 仙台」を合言葉に、ごみ分別に取り組んでいきます。